

市町村名	北大東村							
令和２年度（繰越）沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート								
事業名	観光交流基盤整備事業			事業類型	☒ 産業振興 ☐ 定住促進 ☐ その他			
担当部課名	経済課			事業実施（予定）年度	平成29年度～令和2年度			
事業内容	村所有の宿泊施設ハマユウ荘の新館を整備する。							
	先導性に係る取組	☒ 自立性 ☐ 官民協働	☒ 政策間連携 ☒ 事業推進主体の形成	☒ 離島活性化を担う人材の確保・育成 ☐ その他				
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（令和3年度）							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「補助金」＋「市町村負担」ベース）			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R2（繰越）・R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	31,342		173,000	241,896	－	
		(b) 予算現額	31,342		173,000	241,896	－	
		(c) 増減額（b-a）	0		0	0	－	
		(d) 繰越額	－		－	－	241,896	
		A. 計（b+d）	31,342		173,000	241,896	241,896	
	B. 執行済額		30,024		172,638	0	237,526	
	うち補助金充当額		24,019		134,644	0	190,019	
	次年度繰越額		－		－	241,896	－	
	執行率（％）（B/A）		95.8%		99.8%	0.0%	98.2%	
予算の状況の説明		令和3年1月の県による緊急事態宣言や本村独自の来島自粛要請により、島外からの労働者を確保できなくなったため、工事に不測の日数を要し、241,896千円を令和3年度に繰越を行った。 不用額の4,370千円については入札残によるものである。						
活動目標（指標） 及び達成状況	活動目標（指標）		達成状況					
				H30年度	R1年度	R2年度	R2年度（繰越）	
	新館の整備工事の完了		目標	（ － ）	（ 1件 ）	（ 1件 ）	（ － ）	
			実績	－	1件	－	1件	
	達成状況説明	○新館の整備工事の完了について、沖縄県内での新型コロナウイルス感染拡大を受け、令和3年1月の県による緊急事態宣言や本村独自の来島自粛要請により、島外からの労働者を確保できなくなったため、年度内事業完了が困難となったが、感染状況の落ち着いた時期を見て業務を行い令和3年6月に工事完了となった。						
成果目標（指標） 及び進捗状況	成果目標（指標）			基準値（H29年度）	R2年度	R3年度	R4年度	目標値（R7年度）
	年間観光入込客数		目標		（ － ）	（ － ）	（ － ）	（ 4,500人 ）
			実績	954人	1,027人	482人	－	－
	成果目標（指標）			基準値（H29年度）	R1年度	R2年度	R3年度	目標値（R3年度）
	新規雇用の増加		目標		（ － ）	（ － ）	（ 7人 ）	（ 7人 ）
			実績	0人	1人	2人	2人	2人
	進捗状況説明	○入域観光客数については、前年度から減少（△545人）した。 ※各年度の集計期間はその年の3月から翌年の2月。例：令和3年度は令和3年3月から令和4年2月 ○新規雇用の増加を成果目標とし、令和3年度までに7人の増加を目指していたが2人の増加にとどまった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○「年間観光入込客数」 ・沖縄県内で新型コロナウイルスの感染拡大したことにより県内全域の観光入込客数が減少しており、それと同様に北大東村への観光入込客数も減少したことが課題となった。 ○「新規雇用の増加」 ・新たな雇用を生み出すにあたり住宅不足が課題となった。 ・村内でどのような人材が何名不足しているかを把握することが課題となった。	○「年間観光入込客数」 ・ウィズコロナやアフターコロナに向けて室内の消毒や換気等が必要。 ○「新規雇用の増加」 ・新たな住宅供給が必要。 ・あらかじめどのような人材が必要なのかリストアップすることが必要。
今後の取り組み方針		
○「年間観光入込客数」 ・安心安全に訪れられる宿泊施設の受け入れ態勢づくりを行う。 ○「新規雇用の増加」 ・現在、本補助金を活用した別事業である「農業・観光業新規就業者用定住住宅確保事業」において、定住住宅の整備を進めている。 ・ウィズコロナやアフターコロナに向けての観光需要増加に向けて㈱黄金山が主体となって、人材確保する体制づくりを行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>補助対象事業費</th><th>補助金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>補助対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>237,526</td><td>237,526</td><td>190,019</td><td>47,507</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費	237,526	237,526	190,019	47,507	0
総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費										
237,526	237,526	190,019	47,507	0										
北大東村 237,526千円 委託料 6,435千円 ㈱国建6,435千円 北大東村観光交流施設拡充整備工事管理委託業務(令和2年度分) 工事請負費 222,920千円 ㈱与儀組222,920千円 北大東村観光交流施設拡充整備工事(令和2年度分) 備品購入費 8,171千円 (有)文正堂8,171千円 令和2年度観光交流施設備品購入設置業務														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託料及び工事請負費については指名競争入札を行っており妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算の積算については、3社見積りにより行なった。不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であったと考えられる。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											